

# 社会科の「深い学び」を実現する授業づくり

## 「社会科」の本質

科学的社會認識形成を通して、市民的資質を育成する教科

社会認識



「社会がわかる」

市民的資質



「合理的判断をもとに市民としてふさわしい行動をする」

## 社会科の授業を通して「何ができるようになるのか」

社会科が育成を担う「新しい時代に必要な資質・能力」

【社会科の学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等】

- ・ 社会的事象について主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究する態度
- ・ よりよい社会の実現を視野に社会に関わろうとする態度
- ・ 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚（他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚）や愛情（我が国の国土や歴史に対する愛情）

### 【生きて働く社会科の知識・技能】

- ・ 我が国の国土と歴史や現代社会の政治、経済、国際関係に関する理解
- ・ 調査や諸資料から、社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能

### 【社会的事象に関する未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等】

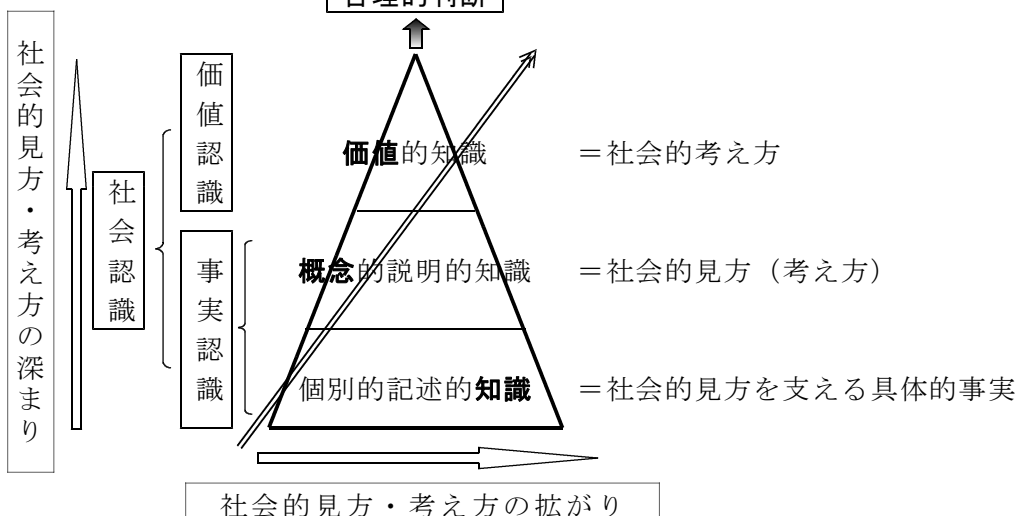
- ・ 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題を把握し、解決に向けて複数の立場や意見を踏まえて選択・判断したりする力や現代の諸課題について公正に判断したりする力
- ・ 思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力

市民としての行動

感情

合理的判断

意志力(信念・社会参加技能)



< 社会認識・市民的資質の育成の構造 > ~ 社会的見方・考え方の位置づけ ~

岡崎誠司(2013)『見方考え方を成長させる社会科授業の創造』風間書房

及び答申別添資料3(2017)より作成